

第 10 回 2018 年 3 月 13 日 (火) 第 10 期 一流塾 卒塾式

2017 年 4 月開講の第 10 期一流塾は、この第 10 回が最終回です。その第 1 部の講義では、木村政雄氏（フリープロデューサー）から『個と経営 - 人と組織の賞味期限』と題してお話し頂きました。



【講師 木村氏】

木村氏は、吉本興業の「やすしきよし」のマネージャー時代、東京事務所の起ち上げや吉本新喜劇立て直しの時期など、それぞれのご経験の秘話をちりばめたユーモアに富んだ語り口で、お話し頂きました。現在は、「量的拡大」から「質的発展」へと社会のニーズが変化しており、異なる分野の相手と協働し、枠をはみ出して流動的に対応する力が求められると説かれました。また、人や組織には「賞味期限」があり、それを延ばすための秘訣について、常識を捨ててリスクを冒して新しいことにチャレンジすることだご自身の経験を踏まえてご紹介頂きました。塾生からは、「リスクを冒して新しい能力を開発し、賞味期限を延ばさないといけないと痛感した」、「常識にも賞味期限があるとのことをお話を聞いて、自分は常識に捉われていることに気づいた」といった声が上がりました。

講義後には、第 10 期一流塾の卒塾式が開催され、一柳塾長、一流塾特別顧問の福川伸次氏（(一財)地球産業文化研究所 顧問、東洋大学理事長、元通商産業事務次官）、同じく斉藤惇氏（(一社)日本野球機構会長 日本プロフェッショナル野球組織コミッショナー、(株)KKR ジャパン KKR Global Institute シニアフェロー、前(株)日本取引所グループ取締役兼代表執行役グループ CEO）、講師の渡邊五郎氏（元三井物産(株)副社長）、特別ゲストの白石真澄氏（関西大学 政策創造学部 教授）から祝辞を頂戴いたしました。



一柳塾長



福川特別顧問



斉藤特別顧問



渡邊講師



白石特別ゲスト

一柳塾長からは、まず、先の見通せない時代にこそ、夢を持ち続け、それを行動計画に落とし込んで、実行してほしいと語られました。また、そのような時代には自分なりの生きる軸を持つことが大切であり、ビジネスにおいては、一貫して教えてきた「三方良し」が基本であることを改めて強調されました。そして、一流塾は卒塾してからでもホンモノからの学びや良き仲間との出会いにより、素晴らしい学びが続くことを紹介されました。最後に、人生 100 年時代と言われるこれからは、自分の強みを磨き、肩書より自分の名前で仕事をして欲しいと伝えるとともに、一度限りの人生、「楽しく、明るく、面白く」生きるよう頑張ってくださいと塾生を激励されました。

福川氏からは、一流塾では自分が将来どうあるべきかを学んだと思うが、激しいグローバル化の時代には、国際的な知的交流により新しい知を生み出して国際競争を勝ち抜くとともに、人から尊敬される人間として、明るい未来の発展に貢献して欲しいと塾生を励まされました。続いて斉藤氏からは、人口減少や労働時間の減少という課題から国際競争力の低下が危惧されるなか、これからは、ぜひ世界を舞台に、多様な仲間と価値観を共有し、協働して新しいものを生み出して欲しいと塾生への期待をお伝えいただきました。そして渡邊氏からは、リーダーの資質として、心の品を大切に、エレガンスとカリスマ性を備えたリーダーになって欲しいと塾生を激励されました。最後に白石氏からは、これから日本が直面する世界に類を見ない高齢化に対して、豊かに健康に生きるために実践すべき「教育」「教養」「絆」など 7 つの K についてご紹介いただき、最後に「明るい性格は財産より尊い」というお言葉とともに笑顔・笑いも人間力の 1 つであるとお示しになりました。



一柳塾長からの
修了証書授与

講師陣のご祝辞の後、一柳塾長から塾生代表の平野氏（日世通商(株) 代表取締役）へ修了証書が授与されました。その後、平野氏が答辞を読みあげ、一柳塾長はじめ講師・特別ゲストの先生方への感謝、この 1 年間の一流塾での様々な学びや仲間との思い出、今後の更なる成長への決意などを、想いのこもった言葉で伝えられました。



塾生代表
平野氏による答辞



白石特別ゲスト
一柳塾長
福川特別顧問
齊藤特別顧問
渡邊講師

第 10 期一流塾 卒塾記念撮影

卒塾式の後には懇親会が開かれ、これまでの学びや交流の思い出、経営者としてさらに成長したいという強い意欲など、互いの想いをぶつけ合い、講師陣も一緒になって熱心に語り合う場となりました。冒頭の福川氏による乾杯のご挨拶に続き皆勤賞の表彰があり、一柳塾長から世界で一つの“一柳”スパークリング・ワインが皆勤賞の 9 名に贈呈されました。また、一流塾士会（卒塾生による OB 会）のメンバーも懇親会に参加され、塾士会会長の石井氏（(株)石井鐵工所 常務取締役）から、塾士会の活動のご紹介や今後の予定、入会のご案内などを、ユーモアを交えて現役生に伝えられました。

その後、第 10 期生の OB 会委員長の選出が行われ、平野氏（日世通商(株) 代表取締役）、塩谷氏（塩谷建設(株) 代表取締役社長）、内村氏（日比谷ともに法律事務所 弁護士）が、満場一致で選ばれました。檀上にあがった 3 人の委員は、卒塾後も第 10 期生の交流を盛り上げることを誓い合いました。



一柳塾長と皆勤賞受賞者



一流塾士会 石井会長



第 10 期 OB 会幹事

(左から:内村副委員長・塩谷副委員長・平野委員長)

続いて、塾生による 1 分間スピーチが行われました。いずれの塾生も一流塾の 1 年間の感想や学んだこと、今後の抱負などについてジョークを交えて語り、そのユーモアに溢れたスピーチに会場が笑いに包まれました。スピーチには、「一柳塾長のような人間力あふれる人間になりたい」、「ホンモノの講師陣と身近に交流でき、自分の意識が変わっていくのが分かった」、「卒塾したがこれからが真価を問われる。学んだことを経営に生かしていきたい」、「ここで出会った仲間は欠けがえのない宝となった」など、いろいろな想いが披露されました。

懇親会の後、塾生有志が塾長を囲んで行われた放談会では、塾長と塾生が一年間の思い出などを振り返りながら、楽しい会話で大いに盛り上がり、名残惜しさを感じながらもそれぞれ今後の活躍を誓い合い、袴を脱いだ語らいで賑やかな交流が深夜まで続けました。



懇親会（福川氏の乾杯）



懇親会風景



放談会風景